



医療事務 中島 高広

昨年12月から、クリニックで医療事務としてお世話になっております、中島と申します。以前は松本市の病院に勤務しておりました。患者様の顔を覚え関わりながら働いてまいりますので宜しくお願い致します。

お知らせ

人間ドック・脳ドック・大腸ドック・肺ドック・認知症ドック
受付中！詳しくはスタッフまでお気軽にご相談ください。

院長の巻頭言

暦の上では寒露となりましたが、お変わりございませんか。そろそろ紅葉の知らせが届きそうですね。今年は猛暑と雨量が少なく、昨年とは違って松茸は長野全県で収穫量が際立って少ない模様です。気候変動のため今年も秋が短く、そろそろ冬に移行します。

今冬季の感染症は、新型コロナウイルスにインフルエンザウイルスが加わり、昨年以上に発熱外来が忙しくなりそうな気がします。脱マスク、気の緩み、旅行、鎮守祭、寄り会、宴会など感染の機会がコロナ禍に比べて何十倍も多いと思います。読者の皆さんだけでも、感染対策としてワクチン接種、マスク装着、手洗い、うがいなどを徹底して感染症をしっかりと予防しましょう。

さて、私事です。相変わらず目がよく見えないまま手術を11月に控えておりますが、眼鏡をかけてもよく見えないので近くまでいけると知り合いともわからず挨拶が遅れることがしばしばで迷惑をおかけしています。また腰痛と殿部痛につきましては、私の症状を緩和してくれる漢方薬を見つめました。加味八仙湯といって、大防風湯と抑肝散陳皮半夏を同時内服するものですが、よく効いています。さらに牛車腎気丸も併せることがあります。漢方薬は西洋薬で治せない症状をも治してしまう不思議な力があります。漢方薬の生薬の素は植物の根、木肌、種、葉などですから植物の恩恵を受けているというわけです。

お待ちかね、久司君のコーナー。東前頭11枚目の大道久司(御嶽海)君は錦富士に寄り切りで敗れ、9勝6敗で場所を終えました。2場所ぶりに勝ち越しましたが、新大関だった2022年3月の春場所以来の2桁勝利には届きませんでした。今場所は久司君の勝敗に一喜一憂させられましたが、勝ち越しを決めた時は久しぶりに喜びました。2021年11月の大相撲秋場所での試合内容について八角理事長が「全く力が出ていないし、気持ちが乗っている時と乗っていない時の差が激しい」と指摘しています。また、久司君自身も過去に「気持ちが疲れてくると気合が乗らない。そういう意味で体力がない」と語っており、精神的な面での弱さが弱さの秘訣とされています。まあ、勝ち相撲の得意パターンがない、精神面が弱い、年齢が30歳など衰えは否めませんが、今後前頭のなかを行ったり来たりする場所になるでしょうね。それでも引退にならないだけよかった。このコーナーも終わってしまうし。

結びの一番を経験した場所もある千秋楽の土俵で、今場所2度目の幕内最初の一番「初口」に回った御嶽海。入門初期以来の初口だった12日目を終えた際、「もう初口で取る自分は想像したくない。上の番付で取りたいと改めて思った」。忸怩たる思いをぶつけるつもりが、精彩を欠いて錦富士に負け10勝に届かなかった。師匠の出羽海親方は「踏み込みの良さが戻ってきた感じはあったが、今場所の番付ならば10勝は最低限。優勝争いに加わってほしかったし、物足りなさはある。秋巡業から自覚を持って稽古し、しっかり準備して九州場所を迎えてほしい」。頑張れ～久司君。

さて、「嘘も方便」ということわざは誰も知っていますね。私が衆生済度にあたっては、方便(手段)として嘘をつくこともある、ということから、大きな善行の前では、偽りも認められるということの意味なのです。その由来は、仏教のお話「三車火宅」にあります。『ある日、家が火事になって、その中では子供たちが遊んでいました。でも子供たちは火事に気づかず、遊び続けていました。そこで、その家のおじいさんが子供たちを救おうと考えた。でも、ただ「危ないから逃げて!」と言っても、子供たちはその危険性を理解できなくて、遊び続けてしまう。だから、おじいさんは子供たちに「外に出てみてごらん、羊の車、鹿の車、牛の車があるよ」と嘘をついた。これを聞いて子供たちは興奮して家から出てきて、火事から無事に逃げる事ができた。だから、「嘘も方便」ということわざは、「必要なときには嘘をついても良い結果を得ることがあるよ」という意味。ただし、これは必要な時だけで、普段は正直に生きることが大切ってことを忘れないことです。

似た言葉には、嘘つき世渡り上手、嘘は世の宝、嘘も重宝、嘘をつかねば仏になれぬ。さて嘘つきで思い出す人物は、釣りばか日誌で浜ちゃんです。彼が会社を休む時に、嘘の忌引きを使う時がありますが、釣りばか日誌の何作目まで、嘘の忌引きを浜ちゃんは使っていますか？ 確か初めに浜ちゃんが使ったのは「釣りばか日誌2」だと思います。第14弾の浜ちゃんが愛する妻の美智子さんが亡くなったと言ってすーさんと四国お遍路に行ったのが最後でした。実際問題、親戚の忌引きと偽って有休を取る職員は多いと聞きます。嘘は、疑われた段階ですでに社会的信用が大きく損なわれます。減俸や左遷などの具体的措置までいかずとも「あの人はよく嘘をつく」という評判が立てば信頼は揺らぎ、仕事を任せられなくなってしまいます。だからこそ不用意に下手な嘘をつく人は出世できません。ちなみに、その反対の諺は、嘘つきは泥棒の始まり、嘘は盗人の始まり、嘘を言うと閻魔様に舌を抜かれるなどあります。

それでは本題にはいりますが、「患者は嘘をつく」が口癖の、偏屈で無愛想だが天才的な頭脳を持つヒュー・ローリー演じる診断医ハウス。相当な変わり者ではあるが、命を救う為ならどんな手段も問わない医師です。これはさておきまして、「患者は嘘をつく」は本当ですか？ その通りと答える人は正直でしょう。笑い話ですが、実際に皆さんも、診察室や病棟での医師との会話で思考停止状態になって、本当のことを伝えられずにその場をやり過ごしてしまったという経験はありませんか。「お薬をちゃんと飲んでいましたか?」、「はい」、薬を飲むことがあまり好きではなく、まじめに飲めていなかった人でも、このように質問されると、医師の前では、つい「はい」と答えてしまうものです。その返事を聞いた医師は、処方した薬では効果が十分ではなかったと判断し、薬を増量するということになりかねません。医師は、その日の外来で薬の効果が得られていなかったのか、ちゃんと飲んでいたかどうかを確認しようとしたのですが、両者がオープンな対話ができている

いために誤った判断に至ってしまうのです。患者としても、本当は薬を服用していないのに「はい」と答えてしまったがために薬を増量され、家庭に持ち帰ったあとに、今後どのように飲めばいいだろうかと悩んでしまいます。このようなボタンの掛け違いが、医師と患者の亀裂をどんどん大きくしていきます。お互いが本音で話し合えないことがいかに大きな問題なのです。

日本最大級の医療情報サイトを運営する総合医療メディア会社の株式会社QLife、医療者・患者間のコミュニケーション事情に関する調査を実施したところ、8%の患者が医療者にウソをついたことがある。男性では5人に1人、女性では3人に1人に上る。年代別では30-50代に多い。一方で「医療者に対して嘘をつくという発想自体がない」とする人も多かった。嘘の内容の1位は「症状を実際よりも軽くあるいは重く言う」で、2位は「服薬状況」。この二つで約半数を占める。それ以外には、多い順に「生活習慣(喫煙など)」や「数値(体温や体重など)」や「原因」の虚偽申告が続く。「男に多い嘘」と「女に多い嘘」とがある。前者は、症状や喫煙習慣に関するもの、後者は服薬状況や食事内容、体重申告に関するものなど。「嘘をついた理由」は、「恥ずかしい」、「医師や看護師に怒られたくない」など消極的な理由が多い。ただし積極的に嘘をついている人もおり、具体的には「費用軽減」、「保険適用」など金銭に関する意図や、「処方量を減らしたいまたは増やしたい」、「治療を早く終わらせたい」など治療内容に関する意図があります。希望を率直に伝えれば、嘘をつかずとも医療者から解決策が提示された可能性があるケースも多いようです。嘘は1割以上がバレます。また、バレなかった人も含め、後悔している人は多いようです。嘘をついたことで、かえって費用負担が大きくなったり、適した治療が受けられなかったなど、デメリットを被ったケースです。なかには「(喫煙を隠す嘘をついた後ろめたさが)本当に

禁煙するきっかけとなった」という、「嘘から出た誠」のエピソードもありました。

また、医師の意見は、「患者は嘘をつくと思って接すべき」の賛成派が7割近く、時に患者は、既往歴や生活習慣など、自身に関する「正しくない情報」を伝えることがあることから、「患者は嘘をつくと思って接するべきだと思うか」を聞いた結果、最も多かったのは「どちらかと言えば賛成」で44.5%。「賛成」(24.2%)と合わせると、7割近くがこの教訓に対し、肯定的な回答を示していた。生活習慣を確認する機会の多い糖尿病・代謝内科においても、6割の医師が「賛成」または「どちらかと言えば賛成」と答える結果となっています。

私個人的には患者さんが嘘をつくことはあると思っています。なぜ嘘をつかなければならなかったのか、嘘の裏にある感情などを理解することが大切と思っています。私に気を遣って嘘を言ってくれていることもあると思います。せっかく処方を出してくれたのに効かなかったけど、効かないとはっきり言えなかったり、効かなかったから他のクリニックに行ったけど、他院には行っていない言ったり、などその場の医師と患者の関係性を壊したくないからという理由が多いと思っています。

それでは、みなさん、ごきげんようさようなら。



まるやまファミリークリニック院長

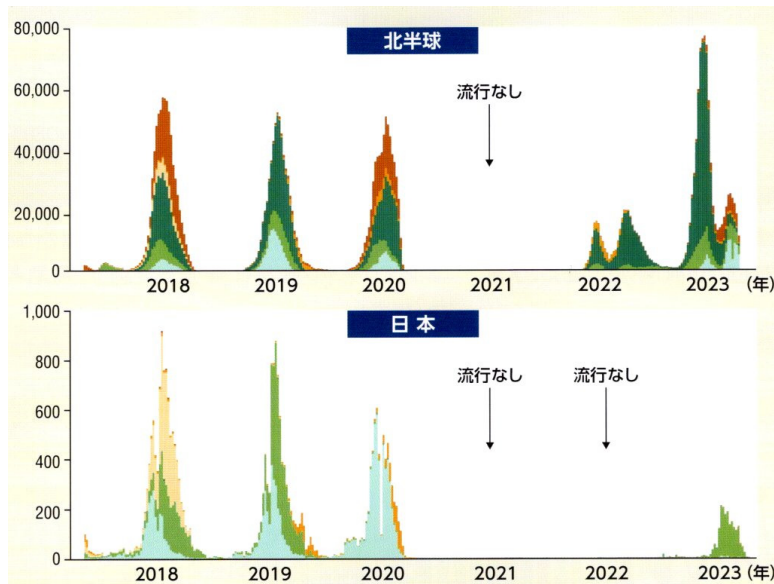
医学博士 丸山 哲弘

インフルエンザ予防接種 開始！

備えあれば 憂いなし 早めのワクチン接種で安心した冬を

飯田下伊那で早くも流行

今シーズンのインフルエンザの流行は過去10年間で最も早い流行期入りとなりました。COVID19の流行も続いており、同時感染に警戒が必要です。一昨年からインフルエンザの感染者が増加傾向にあり、昨年は小規模の流行がみられました。2022年 北半球では小規模の流行があり、昨年2023年は大きな流行がありました。「小さな流行の後に大流行あり」と今シーズンは世界的にインフルエンザの流行が危惧されています。



今シーズンのワクチン株

A/Victoria(ビクトリア) /4897/2022(IVR-238) (H1N1)pdm09

A/Darwin(ダーウィン) /9/2021 (SAN-010)(H3N2)

B/Phuket (プーケット) /3073/2013 (山形系統)

B/Austria(オーストリア) /1359417/2021 (BVR-26)(ビクトリア系統)